



大切なもの

副校長 澤 勉

冬から一足飛びに初夏になったようで、体育の時間には、子ども達が顔を真っ赤にして活動している姿が見られます。学校では適切な水分補給とインターバルをとって、屋外での授業を進めておりますが、暑さに慣れていないこの時期、放課後や休日に子ども達が出かける際には、特に水分補給について、ぜひお声がけを頂けたらと思います。

さて、裏面では草野心平「春のうた」を紹介いたしましたが、先日のニュースで、「青ガエル、横浜に里帰りへ」という記事がありました。この「青ガエル」とは、1986年まで東横線や大井町線などを走っていた（旧）5000系という車両で、下ぶくれの前面二枚窓の形状と萌黄色に塗られた車体からつけられた愛称です。渋谷駅ハチ公口にも、2020年まで保存されていました。里帰りした車両は長野電鉄で第二の人生を17年間過ごしたのちに留置されていたものを、金沢八景にある東急車両製造（現 総合車両製作所）に戻し、復元するとのことでした。

航空機の技術を応用したモノコックボディーなど、1954年製造当時の最先端の技術に満ちていた車両でしたが、私が小学校に上がるころには各駅停車のみの運用となっていました。しかし、その独特な姿が横浜駅ビル（CIAL）の2階改札から見えると、とてもわくわくしたことが思い出されます。東横線の中で一番長い直線の日吉から綱島間を、モーター音も高らかに疾走する車両を記憶されている方もいらっしゃると思います。

この車両が走っていたころと比べると、日吉のまちは大きく姿を変えました。当時の車窓から見えた松下通信工業（パナソニック）の工場は商業施設に替わり、近隣の畑や果樹園、そして大規模な社宅も少なくなりました。日吉駅は発展を続け、2023年3月には相鉄線ともつながります。しかし、3年生がまち探検をすると、町中の豊かな緑や史跡、そして地元に根付いた商店街の様子に気付くことができます。昨年度、1年生と共に出かけた日吉の丘公園では、子ども達がたくさんのアマガエルを手にして、遊ぶ様子が見られました。また、校外学習に出かけると、子ども達に温かな言葉をかけていただける、大勢の地域や商店街の皆様もいらっしゃいます。

コロナ禍が続く中、地域の皆様と触れ合いながら行う教育活動が難しい状況が続いております。しかし、日吉のまちの歴史や自然、文化を学んでいく中で、子ども達はそれらの背景にある保護者や地域の皆様の思いに気付き、自身もこのまちの一員であると自覚することができます。さらに、このような学習を続けていくと、昨今、全国的な課題となっている「コミュニケーション能力の育成」にもつながります。これからも皆様と子ども達との心が触れ合えるような様々な学習方法、学習形態を模索しながら、授業を通して子ども達の心を育てていきます。

いよいよ日吉台小学校は来年、150周年を迎えます。発展していく街並みの中で、変わらないものは何でしょうか。この日吉のまちで育つ子ども達に伝えたいもの、残したいものを保護者や地域の皆様と共に考えながら、今年度も教育活動を進めてまいります。その中で皆様にも願うことも多くなるかと思っております。ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。